



飯田市立病院ニュース

飯田市立病院・高松分院広報

編集・発行／飯田市立病院広報編集委員会 〒395-8502 長野県飯田市八幡町438番地
TEL●飯田(0265)21-1255(代) FAX●飯田(0265)21-1266 http://www.imh.jp/

災害救急医療シミュレーション 訓練を開催しました

二〇〇五年九月四日(日)に災害救急医療シミュレーション訓練を開催しました。

この訓練は、災害拠点病院である当院が、大災害の発生によって多くの負傷者が運び込まれることを想定し、迅速かつ効率的に救急医療体制を整備することを目的に行いました。

手順としては、召集し医療体制整備トリアージ患者の処置の順で行いました。

まず、召集訓練ですが、医師をはじめ主要職員を、携帯しているポケベルで呼び出しました。

召集された職員は、到着順に本部の指示により担当班に配置され、受け入れ体制の整備を行いました。

つぎに1Fロビーにおいて搬送されてきた患者の重



トリアージ訓練



処置訓練

症度別に治療を受ける優先順を決め(トリアージ)、重症者には救急処置班が、中等症者には治療班がそれぞれつき、処置訓練を行いました。

これと同時に進行で交通整備、患者動線設定、特に誰が運び込まれていて、今どのような状態なのかといった情報収集と一刻も早くこの情報が正確に伝わることに重点を置いた本部機能訓練も行いました。

休日にもかかわらず訓練参加者は百十二名を数えたことと迅速に召集することができたことが最大の収穫であったと思います。それぞれの職員の意識により、シミュレーションながらも、臨場感と緊張感を持った訓練が展開できました。そして、飯伊包括協議会との訓練も円滑に行うことができ、大変有意義なものとなりました。



本部機能訓練

【救急医療委員会】

(※注) トリアージ：大規模災害など多数の傷病者が発生したときに、限られた医療機能の中で一人でも多くの傷病者に対して最善の治療を行うために、傷病者の重症度や緊急度によって治療等の優先順位を決める行為

第2回日本乳癌学会

中部地方会が開催される

第二回日本乳癌学会中部地方会が当院の千賀脩院長を学会長として八月二十六、二十七日の二日間にかわつて松本市のMウイングで開催されました。乳癌患者数の増加にともない、これに関わる医療従事者も増え続けており、日本乳癌学会が大きくなったことにより、昨年より全国を七つのブロックに分けて各地域で地方会が開催されるようになりました。

中部地方会は、静岡、山梨、愛知、三重、岐阜、石川、福井、富山、長野の九県が含まれており、第一回は昨年八月に名古屋市の立大学の小林俊三先生が学会長として、岐阜県高山市で開催されました。

今回は乳腺疾患に関する診断、治療、症例報告などの演題が九十八題集まり、Mウイングの二つの会場で発表が行われました。特別

講演として昨年の学会長の小林俊三先生からは、乳癌の「取扱い規約十五版からの提言」の講演があり、またアーリーイブニングセミナーとして、国立がんセンター東病院化学療法科の向井博文先生からは「乳癌治療におけるフッ化ピリミジン系薬剤の意味と意義」の講演がありました。さらにランチョンセミナーでは鹿児島県の相良病院の相良吉厚院長より「チーム医療への道程」の講演が行われました。乳癌に携わる医療スタッフは、外科医、放射線科医、病理医などに限られていましたが、最近では腫瘍内科医、精神科医、薬剤師、乳癌専門看護師、リハビリ、緩和医療など多くのスタッフも加わるようになったことにより、チーム医療の必要性が問われている乳癌診療に対して非常に有意義な講演でありました。

学会は約二百八十人の参加があり、盛会のうちに終了しました。第三回の本地方会の開催につきましては、来年八月に三重県津市の予定となっております。



千賀 脩 院長



高松分院

患者サービス委員会はカード作成・行事・ギャラリー・接遇の四つの係から構成されています。高松分院・ゆうゆうのスタッフのサービス向上を図り、外来患者さん、入院患者さん及びゆうゆう入所者の皆さんに対し、癒しと安らぎを提供できるように地域ボランティアの協力を得て活動しています。

七月二十一日には、ゆうゆう入所者のご家族の協力をいただくなかで、華やかな花火大会と飯田テレメイト（NTTのOG）の方々の歌と踊りで夏の一夜を楽しみました。

今後も患者さんが楽しめる活動を提供できるように取り組んで参ります。



QCサークル活動発表会

8月29日に院内のQCサークル活動の発表会が行われました。QCサークル活動とは小集団で行う改善活動で、当院では平成14年度から取り組みを始めました。各職場での取り組みを展開してから2回目の発表会となります。今回は、看護部、薬剤科、臨床検査科、食養科、放射線技術科、リハビリテーション科、医事課、庶務課を代表する8サークルが発表しました。それぞれ5分間の発表を経営者が評価し、薬剤科の「薬品数を絞って一層スマートに!」に最優秀賞、看護部の「離脱手技の訓練を行い透析中に全員が避難する」に優秀賞、臨床検査科の「採血時における患者さんのプライバシーを保護しよう!」に優良賞が贈られました。講評ではQCサークル伊那ブロックの幹事の方々から、手法の使い方、データの取り方、目標設定の作り方等、今後の活動に役立つご指導をいただきました。QCサークル活動の原点は、現場から自発的に発生する問題意識を改善につなげていく活動です。よりよい患者サービスを目指し、継続的な改善活動が展開できるように医療サービス推進委員会としても推進に力を入れてまいります。



【医療サービス推進委員会】

話題の広場



疥癬への取り組み 院内感染防止対策委員会

疥癬はヒゼンダニという目に見えないほど小さなダニが皮膚に寄生し、ひどい痒みのある病気です。このダニは高齢者や免疫力の低下した人に付くと増殖しやすく、症状が強く現れて、体力の消耗した方々にとって痒みは一層不快なものです。国立感染症研究所の調査によると国内の医療機関や福祉施設では過去にたびたび集団発生しています。

今年7月から8月にかけて市立病院の複数の入院患者さんに疥癬が発生していることが判明しました。直ちに院内マニュアルに沿って皮膚科医師による診断・治療を行うとともに、看護師など関係職員の診察を行った結果8月下旬以降新たな発生はなくなりました。

疥癬対策には家庭・施設・病院の連携プレーが重要です。特に、体力の低下した方が集団生活する病院や福祉施設では職員が手洗いを徹底することで、疥癬に限らずどのような病原体であっても接触感染経路を絶つことができます。院内においては再発生のないよう職員の意識を向上させて患者さんの療養環境の見直しをしました。またご家庭や施設に対しては、ともしれば見過ごされがちな疥癬の早期発見・早期治療・蔓延防止を啓発する目的で疥癬に関するお知らせをしました。

【院内感染防止対策委員会】

病院に対するご意見から



意見カード入れ

院内には患者さんからの苦情や要望をお受けするご意見カード入れを5箇所に設置してあります。今年度これまでにいただいたご意見や相談窓口での受付状況は次のとおりです。

受付件数は45件でその内訳は、要望14件 苦情20件 お礼9件 その他2件でした。要望としては、診断書の記載を早くしてほしいということやジェネリック薬品を採用してほしいなどがあり、苦情では職員の対応に関するものや待ち時間が長いことなどに関するものが多くありました。皆様からいただいた貴重なご意見をよりよい医療を行うために反映させ、期待にこたえられる病院にしていきたいと思っております。

シリーズ

その7

職場紹介

【6階西病棟】

当部署は、神経内科・脳外科・内分泌内科の患者様が入院されている病棟です。入院される患者様の病名ランキングベスト3は1位・脳梗塞、2位・糖尿病、3位・くも膜下出血となっています。入院されるほとんどの患者さんは、昨日まで歩行したり食事をする事が当り前に出来ていたのに、突然全てを他人の手にゆだねなければなりません。このような状況の患者さんに、出来るだけ入院前と同じ状態に回復していただけるように、様々な職種のスタッフが協力し支援させて頂いています。患者さんのベッドサイドには看護師だけでなく、リハビリスタッフ・栄養士・薬剤師の姿をよく見かけます。又障害を残しながらも退院となった時、強い味方が医療ソーシャルワーカーです。介護保険の手続き、介護施設の紹介など様々な相談に応じてくれます。又清潔面の支援には看護助手の方々のパワーが発揮されています。私達は昨日まで出来なかったことが出来るようになった患者さんの変化に日々感動を頂いています。



待ち時間の ご案内について

飯田市立病院で受診される皆様からの苦情や要望の中に「待ち時間が長いが何とかならないのか」との声が多くの方から寄せられています。昨年度の調査結果では待ち時間が平均五分とっており、患者さんには大変ご迷惑をおかけしているのが現状です。病院としましては、待ち時間短縮のため医療サービ

ス推進委員会において検討を重ねております。お待ちいただいている皆様には待ち時間を随時お知らせし、不安を少しでも和らげるようにしたいと思っております。各診療科で医師ごとに待ち時間を表示するよう計画しています。

なお、お待ちいただいている間に具合が悪くなったときなどは、看護師や受付職員に遠慮なさらずにお申し出くださるようお願いいたします。

【医療サービ

放射線治療のお休み



移転新築以来(十四年間)、悪性腫瘍等の放射線治療を行なってきたましたリニアック装置を、この度、最新の機能を備えた機種に入れ替えをする事になりました。この放射線治療装置は、

大きなエネルギー(X線)を使用するため国(文部科学省)の許可が必要となります。又、導入後も人体に正確に放射線を照射する為に様々なテストや調整を必要とし使用できるまでには約三ヶ月くらいの期間がかかります。

来年、一月からお休みをさせていただきます。ご理解とご協力をお願いいたします。

【放射線科】



編集後記

九月初め台風十四号の猛威により日本各地で多くの被害を受けました。

毎年九月には防災訓練が全国的に実施されています。飯田市に於いても四日(日)に防災訓練が行われ、併せて当院でも大規模災害を想定した訓練を実施しました。

災害拠点病院として備えを万全にしていることはもちろんですが、日頃職員一人一人が災害を想定し、有事には素早い行動がとれるように心掛けていきたいと思えます。

【編集委員会 中村京子】

新任医師の紹介

平成17年7月5日



外科 野竹 剛
つよし
平成14年卒業
平成17年7月16日着任
前勤務病院：
豊科赤十字病院